カタリナ
学報 第50号
St. Catherine University
聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部
2023. 6. 1

聖カタリナ大学第36回
聖カタリナ大学短期大学部第58回
聖カタリナ大学大学院第２回　入学式式辞

学長　坂　原　　明

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。聖カタリナ大学を代表して、皆さんの入学を心より歓迎いたします。そして、皆さんを長年支えてこられたご家族や関係者の皆さま方に対し、心よりお祝いを申し上げます。また、ご来賓の皆様には、ご多忙の中、この良き日にご列席くださいまして心から御礼申し上げます。

さて、本日から皆さんは、聖カタリナ大学の学生となり、人生の新しいステップを踏み出そうとしています。この式辞では、皆さんが、大学生活を始めるにあたり、心に留めておいていただきたいことをお話したいと思います。

大学で行われる教育は高等教育と呼ばれ、それは教育制度の中で最高段階の教育であります。そして、大学における高等教育は学問だけではなく、人間の精神的な価値を伝える役割を併せ持っています。

私立大学では、その精神的価値は、一般に「建学の精神」というものに表されています。建学の精神は、大学がその大学の学生に期待する行動の規範とも言えます。本学は、約800年前、聖ドミニコによって設立されました聖ドミニコ修道会に属しています。そして、聖ドミニコ修道会の精神を受け継ぎ、建学の精神として「愛と真理」をかかげています。これは、愛を持って生き、真理を探究するということを意味するものです。

愛を持って生きるとは、簡単にいいますと、思いやりの心を持って「すべての人々を大切にしながら生きる」ということであります。誰にでも人の好き嫌いというものはありますが、愛を持って生きるとは、好き嫌いということを超えて、個々の人をそれぞれ固有の価値を持ったかけがえのない存在として尊重することであります。このように言いますと、少し難しいことのように聞こえるかもしれません。しかし、これは何も特別なことではありません。

人々を大切にするとは、言葉を換えると、人と丁寧に関わるということであり、困っている人を見過ごさず、ちょっとした手助けをする、悩んでいる人の話を聴いてあげる、落ち込んでいる人や大切にされていない人の傍らに寄り添うといったことも含まれると思います。

現代人は、時間に追われる生活の中で余裕がなくなり、人と人との関係も希薄になりがちです。また、表面上は、SNSなどで繋がっているように見えても、心の深い部分では、強い孤独感を抱いている方もおられます。このような社会においては、本当に必要な時に他人に頼ったり、困っている人を支えたりすることができにくくなっています。

言い古された言葉ですが、人間は社会的動物であり、一人で生きていくことはできません。誕生から最期の時まで他者からの有形無形の助けを必要としています。すべての人を大切な存在とする愛は、時と場所を越えた普遍的な価値と言えるでしょう。

また、真理の探究は、大学教育の大きな使命です。大学教育では、既存の知識や技術を覚えるだけではなく、自分自身で問いを立て、その答えを自分自身で見つけていくことが求められます。私たちは多様化した世界で、答えのわからない時代を生きています。こうした時代を生き抜くために、本当に大切なことは何かということを、自ら考え、自ら決め、自ら動くことが求められています。皆さんが、真理を探究する力を本学で身につけることによって、この世界をさらに素晴らしいものにできることを忘れないでください。

本学の学部、学科、大学院は、学問の分野を越えてこの「愛と真理」という建学の精神に基づいて設置されています。学生の皆さんは、学科や専攻の違いにかかわらず、大学生活の中で遭遇する様々な場面において、自分がどのように行動すべきか、ということをこの「愛と真理」という建学の精神に照らし合わせて考

えていただければと思います。

また、この建学の精神を心において生活していくことは、学生の皆さん自身に幸福を呼び込むことになると思います。人は自分が誰かの役に立っていると感じる時、自分の存在価値を実感することができます。そして、それを実感する時、人は自尊心を感じるとともに生きる力が湧いてきます。

人は、人との関わりの中で幸せを感じます。周囲の人が幸福であればこそ自分も幸福を感じることができるのです。自分自身、そして周囲の人が幸せになるためには、お互いが手を差し伸べ合って生きることが大切です。本学の建学の精神であるこの「愛と真理」を心に留めながら大学生活を送っていただきたいと思います。

さて、大学では、高校時代よりも生活の自由が増えます。しかし、それに伴い自分自身をコントロールする強い意志が今まで以上に必要となってきます。大学生活は、人生の土台を形成する大切な時間です。皆さんが将来に対して抱いている夢は、２年間または４年間の大学生活をどのように過ごすかということに掛かっています。皆さんに与えられた機会が、充実したものになるよう努力を惜しまないでください。

最期になりますが、本日から皆さんが、聖カタリナ大学の学生として誇りをもって学生生活を送ること、そして豊かな知識と豊かな心が皆さんの中に育つことを祈りながら私の式辞とさせていただきます。

学長就任メッセージ

聖カタリナ大学・同短期大学部　学長　　坂原　　明

2023年４月１日付で聖カタリナ大学・同短期大学部の学長に就任した坂原明です。本学の設置者である学校法人聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。このような大事な時期に学長に就任した重責に身が引き締まる思いを感じております。

さて、大学は入学された学生の皆さんが満足できる教育を提供し、それぞれの夢の実現をサポートする使命を持っています。私は、この学長就任を機に、教職員と1 on 1のミーティングを行いました。このミーティングの目的は、大学の様々な面の改善案を収集し、学生の皆さんへのサービスの向上を目指すものです。Covid-19の影響で中止しておりました学生の皆さんと学長との懇談会も再開したいと思います。そして、このような活動を通して、本学の教育を一層よりよきものにしていく所存でございます。どうぞ今後ともご支援ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

◆◇ St. Catherine News ◇◆

●2023年度入学式の開催

４月３日(月)、北条キャンパス聖カタリナホールにて大学、大学院、短大の入学式を挙行いたしました。当日の入学式の模様は【聖カタリナ大学公式YouTubeチャンネル】で視聴することが可能です。

●一般財団法人大学・短期大学基準協会による大学評価（認証評価）結果について

聖カタリナ大学短期大学部は、一般財団法人大学・短期大学基準協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

認定期間は、2023（令和５）年４月１日から2030（令和12）年３月末日までの７年間です。

JUNIOR COLLEGE ACCREDITED 2022

●産官学連携事業の商品「まるとっと」が、第９回「ものづくり日本大賞」の四国経済産業局長賞を受賞

１月10日(火)、産官学連携事業の骨まで食べられる干物（魚）（商品名：まるとっと）が、第９回「ものづくり日本大賞」の四国経済産業局長賞を受賞しました。

まるとっとは、平成22年度愛媛県産学官連携共同研究開発事業「高齢者、障害者参加型によるQOL向上食品開発研究」として、産「株式会社キシモト」、官「愛媛県産業技術研究所」、学「聖カタリナ大学」が連携を図り、高齢者施設・障害者施設・聖カタリナ大学で試食を繰り返しながら「食べやすさ」「おいしさ」「調理のしやすさ」などを検証し、改良を重ねて開発されました。

なお、2020年３月、「まるとっと」を宇宙食向けに開発した「スペースまるとっと」がJAXAの「宇宙日本食」に認証されました。干物の宇宙食認証は日本初です。

「ものづくり日本大賞」とは

「ものづくり日本大賞」は製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材など、「ものづくり」に携わっている各世代の人材のうち、特に優秀と認められる人材を顕彰するものです。本賞は、経済産業省、国土交通省、厚生労働省、文部科学省が連携し、平成17年より実施しており、今回で９回目を迎えます。

●本学学生が車いすバスケ大会でボランティア活動を行いました

１月21日(土)、22日(日)に愛媛県総合運動公園体育館にて開催された、西日本車いすバスケットボール選抜大会において、後期開講の「障がい者スポーツ」を履修している健康スポーツ学科３年生20名、社会福祉学科介護福祉専攻４年生２名がボランティアスタッフとして参加しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、大会が縮小したことを受け、21日は大会の前日準備として会場設営をおこないました。大会を円滑に進めることができるよう、学生たちは車いすを利用する選手の目線に立った用具の配置や案内表示の設置を心がけていました。

大会当日は、選手の方々の誘導や車いすのタイヤ拭きなどの選手サポートや、観客受付のみならず、TO（テーブルオフィシャル）やモッパーとして試合に直接関わる役割を担う学生もおり、良い緊張感の中で活動をおこなうことができました。

また、試合を間近で観ることにより、車いすバスケットボールの魅力を感じ取っていた学生も多く見受けられ、この２日間の活動を通して、パラスポーツは障がいのある人だけがおこなうものではなく、健常の人でも行うことができ、障がいの有無にかかわらず様々なかかわりを持つことができる、ということを知るよい機会となりました。

●聖カタリナ大学大学院看護学研究科　第１回研究計画発表会の開催

２月１日(水)市駅キャンパスでは、初めての大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）「研究計画発表会」が行われ、第１期生５名の発表がありました。いずれも多くの文献検討結果を踏まえ、専門性の高い研究に取り組んでいることが伝わりました。

質疑応答では、参加者から多くの助言があり、研究をスタートするにあたり、貴重な機会となりました。今後どのような研究成果が生まれるのか、楽しみにしています。

●第35回（2022年度）社会福祉士国家試験にて、新卒合格者数で「愛媛県内大学１位」「四国私立大学１位」

聖カタリナ大学人間健康福祉学部社会福祉学科（北条キャンパス）では、３月７日(火)に発表された「第35回社会福祉士国家試験」の合否結果におきまして、新卒合格者数で「愛媛県内大学１位」「四国私立大学１位」、受験者10名以上の新卒合格率で「中四国私立大学２位」となったことをご報告します。

2022年度（第35回）介護福祉士国家試験合格率“100％”をご報告します（介護福祉士養成施設合格率75.6％）。

●「カタにゃん」の公式Twitterアカウントの運用を開始

カタにゃんの公式Twitterアカウントの運用を開始しました。

カタにゃんが、学内の風景、イベント情報、その日にあった出来事などをご紹介します。

学内外の様々なところで呟きます。

◆◇ 令和４年度後期行事（R4.10.1～R5.3.31）◇◆

月	日	曜	区	行　　事
10	1	土		おでかけキャンパスin東予
	2	日		おでかけキャンパスin南予
	5	水	大	教務委員会、教務委員会大学部会 北条キャンパス会議、研究倫理委員会
			短	教授会
	8	土		オープンキャンパス
	11	火		キリスト教研究所フォーラム
	12	水		理事長講話（北条キャンパス）
			大	教授会、健康スポーツ学科会議、人間社会学科会議、教務委員会松山市駅キャンパス会議
			短	保育学科会議
	13	木		大学祭パイプオルガン演奏会実行委員会、募集広報ワーキングチーム会議
	14	金		大学見学（川之石高校）
	18	火		研究紀要編集部会
	19	水		教学マネジメント委員会

月	日	曜	区	行　　事
10	19	水	大	理事長講話(松山市駅キャンパス)、看護学科会議、社会福祉学科会議、教務委員会松山市駅キャンパス会議
	21	金		理事会
	22	土	大	総合型・編入Ⅰ・外国人入試
			短	総合型・外国人入試、入試判定部会
	24	月		ＳＤ委員会
			大	入試・募集委員会
	25	火	大	教授会
			短	教授会
	26	水		大学見学（北条高校）、人間文化研究所フォーラム
			大	大学院研究科委員会、看護学実習委員会
			短	保育学科会議
	28	金		大学祭（～10/30）
11	2	水	大	看護学科運営会議
			短	教授会
	8	火		キリスト教研究所フォーラム

月	日	曜	区	行　　事
11	9	水		学長候補者推薦会議
			大	教授会、健康スポーツ学科会議、教務委員会松山市駅キャンパス会議
	10	木		衛生委員会
	14	月		学生生活委員会
	15	火		危機管理対策本部構成員会議
	16	水	大	社会福祉学科会議、看護学科会議
	19	土	大	推薦入試
			短	推薦入試、入試判定部会
	21	月	大	人事委員会、入試・募集委員会
	22	火	大	教授会
			短	教授会
	24	木		奨学制度運営委員会、遠隔地支援制度部会
	25	金		ＳＤ委員会
	26	土		評議員会・理事会
	29	火	大	看護学科キャンパス会議
	30	水		人間文化研究所フォーラム
			大	教授会、大学院研究科委員会、人間社会学科会議
			短	保育学科会議
12	6	火	短	人事委員会
	7	水		将来計画委員会、ＩＲ委員会、研究紀要編集部会
			大	看護学科運営会議
			短	教授会
	13	火		キリスト教研究所フォーラム・所員会
	14	水	大	教授会、人事委員会、社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議、教務委員会松山市駅キャンパス会議
	16	金		理事会、教務委員会
	17	土	大	推薦入試
			短	推薦入試、入試判定部会
	19	月	大	入試・募集委員会
	20	火		学内クリスマス、奨学制度運営委員会、広報委員会、教学マネジメント委員会、情報ネットワークシステム運営委員会、入試・募集委員会
	21	水		冬季休業開始
			大	教授会、看護学科会議、学部長選挙
			短	教授会、人事委員会、保育学科会議
	22	木		人間文化研究所フォーラム
	23	金		ＳＤ研修会
1	7	土		冬季休業終了
	11	水	大	教授会、人事委員会、教務委員会松山市駅キャンパス会議
	13	金	大	研究倫理委員会
			短	教授会
	17	火		キリスト教研究所フォーラム
	18	水	大	選考教授会、社会福祉学科会議、人間社会学科会議、健康スポーツ学科会議、看護学科会議
			短	保育学科会議
	25	水		理事会、人間文化研究所フォーラム
			大	大学院研究科委員会、看護学実習委員会
			短	人事委員会
	28	土		評議員会・理事会
2	1	水	大	看護学科運営会議
			短	教授会
	3	金		危機管理対策本部構成員会議
	4	土	大	一般入試

月	日	曜	区	行　　事
2	4	土	短	一般入試、人事委員会
	6	月		学生生活委員会
	8	水	大	教授会、入試・募集委員会、大学院運営会議、大学院研究科委員会、教務委員会松山市駅キャンパス会議
			短	教授会
	9	木	大	看護学科キャンパス会議
	13	月	大	教授会
	14	火		キリスト教研究所フォーラム
	15	水	大	看護学科会議、教務委員会北条キャンパス会議
			短	人事委員会
	16	木	大	健康スポーツ学科会議
			短	中予地区実習懇談会
	17	金		教学マネジメント委員会
			大	教授会、選考教授会、社会福祉学科会議、人間社会学科会議
	21	火	大	看護学科キャンパス会議
			短	教務委員会
	22	水		人間文化研究所フォーラム
			大	大学院研究科委員会
			短	保育学科会議
	24	金		理事会、第三者評価委員会、強化指定クラブ運営委員会
			大	人事委員会、入試・募集委員会
			短	教授会
	27	月		入試・募集委員会
			大	教授会
	28	火		学生生活委員会
3	1	水	大	看護学科運営会議
			短	教授会
	3	金	短	スプリングセミナー、初心者のためのピアノ教室
	8	水	大	教授会、選考教授会、教務委員会松山市駅キャンパス会議
	9	木		一般入試
			大	人間社会学科会議、看護学科キャンパス会議
	14	火		キリスト教研究所フォーラム
			大	人事委員会
	15	水		卒業式
			大	看護学科会議、健康スポーツ学科会議
	16	木		大学評価委員会、教学マネジメント委員会
			大	教授会
			短	入試判定部会
	17	金	短	教授会、初心者のためのピアノ教室
	20	月	大	人事委員会
	21	火		春季休業開始
	22	水		奨学制度運営委員会
			大	選考教授会、大学院研究科委員会、教務委員会松山市駅キャンパス会議
	23	木	大	社会福祉学科会議
	24	金	大	人事委員会
			短	保育学科会議
	25	土		評議員会・理事会
	28	火	大	選考教授会
	29	水		入試・募集委員会
			大	教職課程委員会

ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学･聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ･お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局　〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL 089-993-1300　FAX 089-992-5616

◆◇ 令和４年度卒業生就職等進路状況 ◇◆

令和５年５月１日現在

１. 業種別状況

【聖カタリナ大学】

業種／学科		就職者数				
		社会福祉	人間社会	健康スポーツ	看護	合計
企業	建設／製造	1	8	12	0	21
	情報通信／運輸,郵便	1	7	3	0	11
	卸売，小売	2	10	10	0	22
	金融，保険	0	0	1	0	1
	サービス(宿泊,複合他)	5	12	5	0	22
	その他(電気,不動産他)	1	1	4	0	6
	教育，学習支援	0	0	6	0	6
医療，福祉	医療,保健衛生(病院他)	3	0	1	43	47
	児童福祉施設	6	0	0	0	6
	老人福祉施設	8	1	0	0	9
	障害者福祉施設	7	0	0	0	7
	その他(社会福祉協議会他)	2	0	0	0	2
公務	国家公務員	1	0	0	0	1
	地方公務員	1	1	3	0	5

就職者数		38	40	45	43	166
	（県内）	(30)	(28)	(30)	(35)	(123)
	（県外）	(8)	(12)	(15)	(8)	(43)
卒業者内訳	就職希望者数	40	44	46	43	173
	就職率	95.0%	90.9%	97.8%	100.0%	96.0%
	（県内就職率）	(78.9%)	(70.0%)	(66.7%)	(81.4%)	(74.1%)
	進学者数	0	3	2	0	5
	家事・その他	2	5	2	5	14
	卒業者数	42	52	50	48	192

【聖カタリナ大学短期大学部】

業種／学科		就職者数
		保育
教育，学習支援	公立幼稚園	1
	私立幼稚園	12
	幼保連携型認定こども園	7
児童福祉	公立保育所	4
	私立保育所・託児所	16
	その他の児童福祉事業	2
企業	卸売，小売	1

就職者数		43
	（県内）	(43)
	（県外）	(0)
卒業者内訳	就職希望者数	43
	就職率	100.0%
	（県内就職率）	(100.0%)
	進学者数	4
	家事・その他	2
	卒業者数	49

２. 職種別状況

【聖カタリナ大学】

職種／学科	就職者数				
	社会福祉	人間社会	健康スポーツ	看護	合計
医療ソーシャルワーカー（ＭＳＷ）	1	0	0	0	1
精神科ソーシャルワーカー（ＰＳＷ）	1	0	0	0	1
相談員（社会福祉主事他）	3	0	0	0	3
支援員（知的・身障・児童他）	14	0	0	0	14
介護福祉士，介護職	8	1	0	0	9
看護師・保健師	0	0	0	43	43
教員	0	0	5	0	5
事務	1	9	3	0	13
販売，営業	5	11	16	0	32
インストラクター・実践指導者他	0	0	3	0	3
その他（サービス，保安，生産他）	5	19	18	0	42
合計	38	40	45	43	166

【聖カタリナ大学短期大学部】

職種／学科	就職者数
	保育
幼稚園教諭	21
保育士	19
社会福祉専門職業(児童厚生員含む),介護サービス職業	2
販売	1
合計	43
（保育専門職への就職率）	(97.7%)

◆◇ 令和４年度教授会議題（後期）◇◆

【聖カタリナ大学教授会議題】

令和４年10月25日　第８回

1．2023年度社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科総合型選抜合格者選考について
2．2023年度社会福祉学科・健康スポーツ学科第３年次編入学推薦選抜（提携校Ⅰ期）合格者選考について
3．2023年度人間社会学科第３年次編入学一般選抜Ⅰ期合格者選考について

令和４年11月９日　第９回

1．退学について
2．休学について
3．除籍の取り消しについて
4．2023年度学年暦について
5．学部長選挙管理委員会委員の選出について

令和４年11月22日　第10回

1．2023年度社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科学校推薦型選抜（指定校推薦前期・専願推薦・スポーツ推薦Ⅰ期）合格者選考について
2．2023年度社会福祉学科・人間社会学科外国人留学生特別選抜（指定校推薦）合格者選考について

令和４年11月30日　第11回

1．2023年度看護学科学校推薦型選抜（指定校推薦・公募制推薦・学園特別推薦）合格者選考について

令和４年12月14日　第12回

1．復学について
2．令和４年度学長賞表彰者について

令和４年12月21日　第13回

1．2023年度社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科指定校推薦選抜（後期）合格者選考について
2．2023年度社会福祉学科・健康スポーツ学科スポーツ推薦選抜（Ⅱ期）合格者選考について
3．2023年度社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科一般推薦選抜合格者選考について
4．2023年度健康スポーツ学科社会人特別選抜（Ⅰ期）合格者選考について

令和５年１月11日　第14回

1．聖カタリナ大学学則の一部改正について
2．聖カタリナ大学編入学生に関する規程の制定について

令和５年２月８日　第15回

1．2023年度社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科一般選抜（Ａ日程）合格者選考について
2．2023年度社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科共通テスト利用選抜（前期）合格者選考について
3．退学について
4．聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部における公的研究費の運営及び管理に関する規程の改正について

令和５年２月13日　第16回

1．2023年度看護学科試験選抜合格者選考について

令和５年２月17日　第17回

1．卒業判定について

令和５年２月27日　第18回

1．2023年度社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科一般選抜（Ｂ日程）合格者選考について
2．2023年度社会福祉学科第３年次編入学推薦選抜（提携校Ⅱ期）合格者選考について
3．2023年度健康スポーツ学科第３年次編入学一般選抜（Ⅱ期）合格者選考について
4．2023年度看護学科共通テストプラス選抜（Ａ日程）合格者選考について

令和５年３月８日　第19回

1．2024年度聖カタリナ大学及び大学院の入試概要について
2．卒業の認定について
3．退学について
4．復学について
5．除籍について

令和５年３月16日　第20回

1．2023年度人間社会学科一般選抜（Ｃ日程）合格者選考について
2．2023年度人間社会学科共通テスト利用選抜（後期）合格者選考について
3．2023年度看護学科共通テストプラス選抜（Ｂ日程）合格者選考について
4．退学について
5．復学について
6．転学科について
7．進級判定について

【聖カタリナ大学短期大学部教授会議題】

令和４年10月25日　第８回

1．2023年度総合型選抜Ⅰ期合格者選考について

令和４年11月２日　第９回

1．2023年度学年暦について
2．2023年度学校推薦型選抜（指定校推薦前期・専願）合格者選考について

令和４年11月22日　第10回

1．2023年度学校推薦型選抜（指定校推薦前期・専願）合格者選考について

令和４年12月７日　第11回

1．休学について
2．学長賞表彰者について
3．学科長選挙管理委員会委員の選出について

令和４年12月21日　第12回

1．2023年度総合型選抜（Ⅱ期）合格者選考について
2．2023年度指定校推薦選抜（後期）合格者選考について
3．2023年度社会人特別選抜（Ⅰ期）合格者選考について

令和５年１月13日　第13回

1．聖カタリナ大学短期大学部学則の一部改正について

令和５年２月１日　第14回

1．聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部における公的研究費の運営及び管理に関する規程の改正について

令和５年２月８日　第15回

1．2023年度一般選抜（Ａ日程）合格者選考について
2．2023年度共通テスト利用選抜（前期）合格者選考について

令和５年２月24日　第16回

1．卒業判定について

令和５年３月１日　第17回

1．2024年度聖カタリナ大学短期大学部の入試概要について
2．退学について

令和５年３月17日　第18回

1．2023年度社会人特別選抜Ⅱ期（リカレント訓練）合格者選考について

カタにゃん Twitter

大学 公式LINE

※QRコードをスキャンするとLINEの友だちに追加されます。

大学公式 Instagram

受験希望の方

大学HP

保育学科 ブログ

◆◇ 令和４年度学校法人聖カタリナ学園決算概要 ◇◆

（注）　表中数字の単位は、「百万円」です。
百万円未満は四捨五入して記載しています。

■１．資金収支決算

資金収支決算は、資金収入が48億32百万円（予算比△31百万円）、資金支出が46億64百万円（予算比△53百万円）となりました。結果、収支差額1億68百万円に前年度繰越支払資金19億66百万円を加算し、翌年度繰越支払資金は21億34百万円となりました。

■資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度の支払資金（現金＆いつでも引き出すことができる預貯金）の収入及び支出の顛末を表します。

科　　目		予　算 (a)	決　算 (b)	増　減 (b)−(a)
前年度繰越支払資金		1,966	1,966	―
当年度	資金収入	4,863	4,832	△31
	資金支出	4,717	4,664	△53
	収支差額	145	168	22
翌年度繰越支払資金		2,112	2,134	22

■２．事業活動収支決算

事業活動収支決算は、事業活動収入が44億76百万円（予算比+1億18百万円）、事業活動支出が45億7百万円（予算比△13百万円）となり、基本金組入前当年度収支差額は△31百万円（予算比+1億31百万円）となりました。同差額より基本金を組み入れた結果、当年度収支差額は△2億74百万円（予算比+1億46百万円）となり、翌年度繰越収支差額は62億31百万円（予算比+1億46百万円）となりました。

■事業活動収支計算書：当該会計年度の事業活動収入（学校の負債とならない収入）及び事業活動支出（現預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含む）の内容を表すとともに、基本金組入前及び基本金組入後の収支均衡状態を明らかにします。一般企業会計の「損益計算書」に当たります（右表は総括様式）。

科　　目	予　算 (a)	決　算 (b)	増　減 (b)−(a)
事業活動収入計　①	4,357	4,476	118
事業活動支出計　②	4,520	4,507	△13
基本金組入前当年度収支差額　(①−②)	△163	△31	131
基本金組入額合計	△257	△243	14
当年度収支差額	△420	△274	146
前年度繰越収支差額	△5,957	△5,957	―
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△6,377	△6,231	146

■３．貸借対照表

貸借対照表は、本年度末（令和5年3月31日）において、資産の部は164億24百万円、負債の部は28億75百万円、純資産の部（正味財産）は135億49百万円（基本金197億80百万円と繰越収支差額△62億31百万円の合計額）となりました。

■貸借対照表：一定時点（本学は３月末現在）の資産、負債、純資産（基本金・繰越収支差額）の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

科　　目	本年度末 (a)	前年度末 (b)	増　減 (a)−(b)
資産の部			
固定資産	14,111	14,299	△187
流動資産	2,313	2,557	△244
資産の部合計	16,424	16,856	△432
負債の部			
固定負債	2,179	2,311	△132
流動負債	696	964	△268
負債の部合計	2,875	3,275	△400
純資産の部			
基本金	19,780	19,537	243
繰越収支差額	△6,231	△5,957	△274
純資産の部合計	13,549	13,581	△31
負債及び純資産の部合計	16,424	16,856	△432

＊ 学校法人会計基準について ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

学校法人は、一般事業法人と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通した人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、「経営」という視点を欠き、過分な設備投資や場当たり的な運営を続けていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招き、場合によっては、存続すら危うくなってしまいます。こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和46年に文部省令第18号として制定された「学校法人会計基準」です。国または地方公共団体から補助金の交付を受けている学校法人は、私立学校振興助成法第14条に基づき、「文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行い、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成しなければならない」とされています。なお、学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成25年4月22日文部科学省令第15号）が平成27年4月1日に施行され、平成27年度以降の予算・決算に適用されています。＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◆◇ 人　事 ◇◆

《令和４年11月17日付け》

【新規採用】

（松山市駅キャンパス）

看護学科

実習助手(非)　井上　能江

《令和４年12月31日付け》

【退職】

（北条キャンパス）

会計課

事務職員　川端　慶子

入試課

事務職員(非)　西原　直子

（松山市駅キャンパス）

看護学科事務部局

事務職員(非)　大野　弥生

《令和５年１月23日付け》

【新規採用】

（北条キャンパス）

図書課

事務職員(非)　井上　真紀子

《令和５年２月28日付け》

【退職】

（北条キャンパス）

教務課

事務職員(非)　乗松　朋代

《令和５年３月31日付け》

【退職】

人間健康福祉学部

准教授　青木　謙介

助教　有吉　美恵

助教　袴田　渉

保育学科

講師　牛島　光太郎

教務課

係長　小笠原　由美子

会計課

技術職員（守衛）　川那辺　憲一

看護学科事務部局

事務職員（保健室等業務）　桐島　安代

事務職員（保健室等業務）　田中　深雪

実習助手(非)　山川　恵子

実習助手(非)　田中　都智美

法人本部事務局

庶務課

事務職員(非)　三宅　來

【新規採用】

人間健康福祉学部

准教授　酒井　淳子

准教授　福留　広大

講師　寺尾　奈歩子

助教　島村　真理子

助教　時岡　拓磨

助教　松本　行矢

保育学科

助教　荒西　伸吾

総務課

事務職員　近藤　輝

看護学科事務部局

事務職員　荒木　美喜

実習助手(非)　豊崎　陽子

実習助手(非)　門田　聖子

（8Pへ続く）

会計課
技術職員（守衛）　三瀬　忠承

【昇任】

人間健康福祉学部
教授　大久保　元正
准教授　近藤　益代
准教授　大城　卓也
准教授　中川　雅智
講師　庄野　亜矢子
講師　西山　里枝
講師　阿部　祥子
助教　乗松　柚衣

保育学科
准教授　仲野　由香利

学生支援課
課長　和田　真佐子

看護学科事務部局
課長補佐　正岡　祐子

教務課
係長　砂野　佑介

総務課
主任　山下　真妃

会計課
主任　大堀　開生

法人事務局
局長補佐（法人会計課長兼務）　石井　亮

【配置換え】

会計課
課長　池田　哲

総務課
課長　新名　敏弘

附属図書館分館
池本　真由美

図書課
係長　松田　文子

就職課
係長　髙市　恵

教務課
事務職員　ヘンスリー　美絵

◆◇ 研究室探訪 ◇◆

聖カタリナ大学短期大学部
保育学科　助教
谷口　聖

保育学科の教員として歩み始め、はや６年となりました。本学教員になるまでの経緯を少しお話させていただきますと、私は奈良県で生まれ、親族のほとんどが保育従事者という少々特殊な環境で育ちました。その影響を受けたためか、保育への関心が高まり、将来は保育に携わる仕事に就きたいと考えるようになりました。現在は、本学教員として研究を進める中で、保育の奥深さ、特に乳幼児期の人間関係の育ちが、その後の人生に大きく影響を与えることを知り、ますます興味が深まっております。

さて私の専門領域は、主に乳幼児期の人間関係についてであり、本学では人間関係の科目と保育実習に関する科目などを担当しております。最近の研究のテーマは､幼児のけんかやトラブルについてです。

突然ですが、みなさんは幼児のけんかにどのようなイメージがありますか？恐らく、良いイメージを持たれていないのではないでしょうか。実際に「幼児のケンカに、どのようなイメージを持っていますか？」と保育学生に尋ねると、「極力避けるべきこと」「嫌な体験」などのネガティブなイメージを多く持っているようなのです。確かに、幼児のけんかは人間関係に亀裂を生んだり、怪我をしたりなど一般的にはネガティブなイメージが付きまとう一方で、人との関わりを育む内容がたくさん含まれています。

例えば、４歳児の積み木遊びにおいてＡ君は一緒にお家を作りたいが、Ｂ君はタワーを作りたいとの意見の不一致でけんかに発展したり、園庭の遊具に乗るために列に並んでいると、お友だちが列に割り込んでくることで言い合いのけんかになります。そこで、保育者が、それぞれの子どもの主張や気持ちに共感し､互いの主張が伝わるように代弁をしたり、納得して気持ちを立て直すことが出来るように関わることで、自身の思いを主張する自己主張や、他者の主張と折り合いを付けること、自身をコントロールする力である自己抑制が身につくのです。また、「社会関係を学習する機会」「他者への思いやり」「他者理解・共感性」などの発達を促すものとされているのです。

現在、核家族化や少子高齢化、SNSなどの普及による直接体験の不足が指摘しています。直接体験とは、人や物や実社会に触れ、直接的に関わり合うことです。直接体験が不足している現代だからこそ、けんかなどを通して体験する「悔しい、楽しい、悲しい」などの感情体験が子どもの人格形成において非常に重要なのです。

次世代の保育を担う学生が、このような専門的知識や技術を身に付け、専門職として、地域社会で貢献できるよう、私自身の研究成果も生かしつつ、学生指導に邁進したいと思っております。

聖カタリナ大学・短期大学部学報
〒799-2496　愛媛県松山市北条６６０番地
ＴＥＬ．089－993－0702(代)
https://www.catherine.ac.jp
編集・発行
広報委員会
kouhou@catherine.ac.jp